

A. 日 時 2015年11月19日木曜日 17時30分～19時30分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本主査 他8名

D. 提出資料 (提出委員名も記入して下さい)

No. 11-01 : 第10回環境振動性能評価小委員会 議事録(案) 藤

No. 11-02 : 説明性 WT (前性能評価小委員会活動報告)

No. 11-03 : 環境振動のわかりやすい表現方法について (説明性 WT 報告に代えて)

No. 11-04 : ISO6897、Systematic Review voting result

No. 11-05 : Wind-Induced Motion of Tall Buildings, DESIGNING FOR HABITABILITY

E. 審議事項

1. 議事録確認

資料 11-01 「第10回環境振動性能評価小委員会 議事録(案)」について報告

A) 前回委員会議事録内容の確認

→ 承認された

2. 運営委員会活動報告

A) 運営委員会報告

※ 環境振動シンポジウムについて

→ 2016年2月5日(金)に催される

→ メインテーマは「建物振動に関する居住性と安全性について」であり、鹿島建設改修の新宿三井ビルディングやスカイツリーならびにアベノハルカス等の話題に触れつつ、居住性能評価指針の改定についての講演等を予定

※ 若手優秀発表について

→ 環境振動分野から2名が選出される、学会サイトでも公表される予定

※ 来年度大会について

→ 福岡大学で開催、8月24日(水)、25日(木)、26日(金)を予定

3. 議論

A) 資料 11-02 「説明性 WT (前性能評価小委員会活動報告)」に関して報告

※ 前小委員会4チームのうち、説明性 WT の活動について

- 
- 環境振動の「見える化」について一般の方々に対して分かりやすい表現とは何か
  - 音分野に関しては（主観的ではあるが）様々な表現があるが、環境振動でも行うことは可能か
  - ユーザー（建築主）を対象として説明性のあり方について今後まとめる

※ 具体的な表現方法について

- 振動の大きさについて「イラスト」「言葉」等を用いて視覚的に訴えかける方法の検討を行う
- 気象庁による地震の震度階の表現を参考にすることも検討
- 「人間工学ハンドブック」「自動車技術ハンドブック」等には振動を擬音で表現している記載がある
- 音分野では振動数（音の高低）ごとの形容詞的な表現も示されている
- 設計指針マトリックスの前段階の説明に用いるのが良いか？

※ 振動の大きさの差異をイラスト化することは可能か？

- 加振源がある程度特定されることから、周波数範囲も限定されるのでイラスト化も可能であると考えられる
- 現在は環境振動を表現する際のバックデータ（例えば擬音表現）が不足していると思われることから今後も調査・研究が必要
- 作業難度等を対象とする大きな振動に関しては表現可能であると思うが、知覚閾近傍程度の微小な振動に対する表現ほど難しい
- ピーク値での表現はまだやり易いが、時間の影響を加味するとより表現の難度が上がる
- 振動を分類し時間影響の度合いにも配慮（例えば床振動は衝撃的、風振動は定常的、その中間が交通振動）

※ 人体応答に着目

- 3.11時の超高層建築物の上層階では立っていることも困難、長周期は船酔いの可能性もあり、昼なら問題ないけど夜ならダメ等

※ 環境振動の見える化に関する今後の活動

- 環境振動を表現する文言を集めるワーキングチームを立ち上げる
- 音に関し見える化をチャレンジした資料を委員より次回ご提供いただく
- 日本女子大石川研究室でも継続的に研究を行っており、次回の委員会にて研究（擬音に関する被験者アンケート）のご紹介をいただく
- 委員によるイラスト案の作成のため、主査宛に「環境振動の表現案」を委員各位より送付すること（1つの事象を2つの表現で示してもらえるとイラスト化し易いとのこと、例えば洗濯機がガタガタ揺れる、ゆらゆら揺れて酔いそう等）

B) ISO6897の改定について松本主査より報告

※ 現在改定の可否も含めて検討中

- 改定不要の意見が最も多かった（見直し票はオーストラリア、日本、ノルウェー、イギリス、
-



